

第7回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー
 デジタルアーカイブズ構築事業の成果紹介とこれからの活用を考える
 ライトニングトーク：総合図書館のデジタル化について

総合図書館情報サービス課資料整備チーム 中村美里

1. アーカイブズ構築事業における総合図書館のデジタル化実績（2020年度以降(*1)）

- ・ 総合図書館所蔵資料のうち貴重図書に指定されている資料を最優先に、文庫単位でデジタル化を実施中。
- ・ あわせて、利用頻度の高い資料や時宜にかなった資料、現物資料の取扱いが難しい資料（卷子本や大型資料等）なども毎年数点デジタル化対象に含めている。

年度	対象文庫等(*2, *3)	点数(*4)
2020	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南葵文庫（貴重図書） ・ 鶚軒文庫（一般和古書） ・ サンスクリット写本（貴重図書） ・ その他（利用頻度の高い資料等） 	254点
2021	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南葵文庫（貴重図書） ・ サンスクリット写本（貴重図書） ・ その他：利用頻度の高い和漢古書等 	153点
2022	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南葵文庫（貴重図書） ・ 鷗外文庫（貴重図書） ・ 田中芳男文庫（貴重図書） ・ 鶚軒文庫（貴重図書） ・ 青洲文庫（貴重図書） ・ 連歌俳諧書集成（貴重図書） ・ 館史資料コレクション ・ サンスクリット写本（貴重図書） ・ その他（利用頻度の高い資料等） 	226点
2023	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青洲文庫（貴重図書） ・ 館史資料コレクション ・ その他（利用頻度の高い資料等） 	192点

(*1) 2019年度以前のデジタル化実績は第3回セミナー資料を参照してください。

<http://hdl.handle.net/2261/00078916>

(*2)各文庫の紹介ページが以下にまとめてあります。

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/collectionall>

(*3)サンスクリット写本デジタル化の実施主体は人文社会系研究科。

(*4)サンスクリット写本を除く。

※上記アーカイブズ構築事業のほか、国文学研究資料館が推進する「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」による古典籍デジタル化も毎年実施しています。

※特色ある資料のご紹介

①疱瘡絵【2020年度】

- ・ 疱瘡絵とは、江戸時代に流行した疱瘡（天然痘）予防のため、あるいは罹患した人が早く治るよう、家の門や室内に貼られた厄除けの絵。
- ・ 新型コロナウイルスが流行していたこの時期、病除けの画像に注目が集まっていたので、急遽デジタル化を実施した。

(『國芳芳藤疱瘡繪帖』 G26:1355)



②甲午日記：天保五年正月吉日（馬琴日記）【20201年度】

- ・ 滝沢（曲亭）馬琴（1767-1848）の自筆日記。本来は15冊あったが、関東大震災による火災で焼失し、その時に貸し出されていたこの1冊のみ現存する。
- ・ 以前からデジタル公開を望む声が多く、全ページをデジタル化した。

(『甲午日記：天保五年正月吉日』 A00:4613)



③Noticen, 1884-86【2022年度】

- ・ 森鷗外による自筆資料で、ドイツ留学時代の研究ノート。
- ・ 2022年10月から開催した附属図書館特別展示「テエベス百門の断面図 歿後100年記念 森鷗外旧蔵書展」にあわせてデジタル化した。

(『Noticen, 1884-86』 鷗 A100:1654)



④ゲーテ自署付書簡 [Letter] Weimar, 29. Dcbr. 1822 [to L. W. Cramer] (WA IV-36, S. 249 対応)
【2022年度】

- ・ ゲーテ(Johann Wolfgang von Goethe, 1749-1832)の自筆署名が入った書簡。この書簡に関する論文が総合文化研究科の石原あえか教授により執筆され、それにあわせてデジタル化を行った。
- ・ また翻刻テキストデータの提供が石原教授からあり、TEI (Text Encoding Initiative) に準拠したかたちでテキストを公開した。

(『[Letter] Weimar, 29. Dcbr. 1822 [to L.W. Cramer]』 A100:2070)

